

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO 法人 よるべさ	代表者	小野田 直子	法人・事業所の特徴	南北に70キロ以上ある幌加内町の中でも市街地から30キロ以上離れた地域にある事業所です。介護サービスが市街地に集中しており、高齢化が進んだこの地域では除雪や病院が遠いなどの事情から地域を離れるしか選択がなかったのですが住み慣れた地域で最後まで過ごしたいという思いを支えていこうと開設されました。
事業所名	スマイルホームえん	管理者	蔵前 直美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	11人	0人	1人	1人	0人	5人	0人	18人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	もう少し短期間の中で全員参加できるようにする。 先に集計して意見をだしあえるようにする。	職員に自己評価をしてもらい、意見などを集計してからミーティングを行うことにより、短期間で実施できた。	事業所の自己評価の内容が具体的に理解できない。実際の職員の名前と顔が一致しない。何に困ってどうしているのかわからない。	今後も全員の意見が反映できるように、事前に自己評価した資料を集めて集計して意見交換する方法を取る。地域の皆さんには自己評価をどのように実施したかや、職員構成が分かる資料を別に添付する。中間期に自己評価も含め改善計画全体の進捗状況確認と、見直しをする。自己評価の内容を理解してもらうために、運営推進会議等で「小規模多機能型居宅介護事業とは」「サービスの進め方、関係資料」などの説明機会を設ける。
B. 事業所のしつらえ・環境	インターフォンの張り紙をする。(押してもらえるように) 来客のベルがなったら両方の玄関を確認する。	インターフォンがなった時は職員が対応するが出入りのセンサーには毎回、確認するということが完全ではなかった。鍵をかけていないのでインターフォンを押さずに入ってくる場合があり家族などが来訪していて後で気が付くなどがあった。	インターフォンを押しても誰も出てこない時があり、中まで入ってわかる時があった。安全面はどのようにとりくんでいるのか？小規模は鍵はかけないのか、物騒ではないか？小学校などはオートロックになっている。玄関が二つあるのが大変なのか？	来所者が来たらすぐに対応できる体制を作る。(寮の玄関にあるセンサーの反応範囲を広げる。受信機を持つ担当職員を決め、対応する。)来所者名簿を作成し記録する。事業所で行事がある時は行事を行っている場所だけでなく利用者さんが過ごしているところ等見ってもらう。
C. 事業所と地域のかかわり	老人クラブや地域行事に参加する。新人を紹介する機会をつくる。よるべさ通信で紹介をだす。	三自治区の老人クラブには職員が交代で参加しているが偏りがあり、職員全員を知ってもらえていない。地域行事にも積極的に参加しているが地元に住んでいる職員が多くなってしまふ。	結構、皆顔を出している。現状のまま続けたら良い。自治区の集まりの時にもっと来るようにしたらよい。	老人クラブ等の地域行事に職員が交代で参加する。現在行っている、よるべさ主催の地域交流事業を引き続き実施する。今まであまり利用していない方も参加しやすいように、内容や周知方法などの見直しをする。職員全員を写真入りで紹介し、寮の壁に掲示する。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	今まで通り地域行事やイベントに参加する。担当者会議に地域のかたも入ってもらうようにする。	地域行事などは利用者さんの体調など考慮しながらできるだけ参加できた。地域の方を含めたプラン作りが出来ていなかったため、担当者会議に入ってもらうことはできなかった。	目標に挙げるのであればできなかった理由をしっかりと検証すべき。担当者会議の必要性は何か？職員だけで良いのでは？	今迄通り、地域行事やイベントに利用者様が参加できるように計画する。担当者会議を開催するときに、地域の民生委員さん等に参加案内をする。」
E. 運営推進会議を活かした取組み	地域全体の事例検討ができるようになげかける。地域の見守りネットワークを完成させる。	地域のマップなど作り、普段どのように見守りをしているかなどの話し合いはできたが事例検討等の機会がなかった。運営推進会議には参加者が固定して流れが分かってきた様子がある。会議で出た内容などは通信で地域に周知できた。行事を行った後の意見など出ることがあった。	運営推進会議に何回も参加するようになり、以前より仕組みが理解できてきた。外部評価を地域で行うようになったのはなぜ？	地域の見守りネットワークを完成させる。地域に心配な方は居ないか等の意見交換を毎回の会議で行う。よるべさで実施したイベント、地域交流事業の報告と意見交換を会議で行う。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の防災訓練に参加する。防災訓練を運営推進会議にかける。カセットコンロ式ポータブルストーブを購入する。非常用備蓄を考える。	非常用備蓄などは特別に用意していない。カセットコンロ式ポータブルストーブを購入予定したが、灯油式に変更しこれから用意する予定がある。避難訓練は事業所のみで行い地域の方を交えての訓練は行われていない。	避難場所はコミュニティセンターとなっており、災害備品などもある。発電機があったらよいのでは。火災などで外に避難した後どのようにするのかなど決めていない。	火災のみならず、水害など他の災害も組み込んだ防災計画（案）を立て運営推進会議で検討する。朱鞠内地区にある防災備品の確認。及び事業所としての防災備蓄の確保。避難訓練の案内をする。